南アフリカの図書館大会
-2015年8月，IFLAケープタウン大会-

メタデータ	言語:
	出版者: 日本図書館協会
	公開日: 2024-01-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 三浦,太郎
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/0002000194

★ 小特集 IFLA ケープタウン大会レポート ★

南アフリカの図書館大会

――2015年8月，IFLAケープタウン大会――

三浦太郎

ケープ・マレー

南アフリカでは，スパイシーな味付けのケープ・マレー料理「ボボティー」をはじめ，香辛料をふんだんに使った料理が多い。

大航海時代からの歴史を繙けば，16～17世紀ヨーロッパでは，スペイン・ポルトガル，オランダ，イギリスが海洋覇権を争い，東南アジアの香辛料貿易に鎬を削った。1602年，オランダ東インド会社（VOC）が創設されると，VOCは強大な軍事力を背景に，ジャワ島・スマトラ島・セイロン島などに拠点を築き，南アジア以東の広汎な貿易独占権を獲得した。VOCは東インド総督の任命権や，条約締結・交戦権なども有する強大な組織体であった。江戸時代日本でも，平戸のち長崎出島にオランダ商館が建てられ，中国産生糸と銀・銅の交易が続けられた。

▲テーブル・マウンテン

オランダ船は喜望峰回りでアジア航路を開いたが，1652年，VOCの貿易船に水や食料を供給する基地として，アフリカ大陸南端テーブル・マウンテンの麓にケープ植民地が建設され，やがて東南アジアから奴隷やムスリムの宗教者たちが，この地に連れてこられることとなった。マレー半島やインドネシアにルーツをもつ，そうしたケープ・マレーの人びとが，クローブやターメリックなど強い風味をもつマレー料理を，この南アフリカの地に伝えたのである。

大会概要

今年８月15～21日，「世界図書館情報会議（WLIC）：第81回IFLA年次大会」（IFLAケープタウン大会）が，テーブル・マウンテンを仰ぎ見る当地国際会議場で開催された。テーマは「ダイナミックな図書館：アクセス，発展，変化」である。アフリカ大陸では第50回（1984）ナイロビ大会，第73回（2007）ダーバン大会以来，３度目の開催となった。

例年どおり，本大会では初日に分科会やグループの会合が設定され，翌16日に開会式が開かれた。大会参加者は112の国と地域から3,100名以上を数え，225のセッション（約半数は公開），68の企業展示ブース，ポスター発表132件が集まった。規模としては，昨年のリヨン大会に比べて３割程度減であった。このほか，参加者がケープ・マレーなどの郷土料理やダンスを楽しんだ「文化の夕べ」（18日），残念ながら定足数に満たなかった総会（19日），各種表彰が行われた閉会式（20日）などが続き，最終日の図書館ツアーを以て幕を閉じた。

▲文化の夕べ

参加者内訳では，現地・南アフリカ共和国から1,369名を数えたほか，ナミビア114名，ナイジェリア84名と，アフリカ諸国からの参加が多く，また，来年の開催国アメリカ合衆国からも285名が参加した。日本からは25名以上を数え，このうち，小田光宏氏（IFLA図書館情報学教育分科会委員）ら６名が会議で発表し，井上靖代氏（IFLA情報への

自由なアクセスと表現の自由委員会（FAIFE）ほか委員）がセッション担当を務めた。原田智子氏（鶴見大学）ほか３件のポスター発表もあった。

今期は一部委員の改選もあり，10月号NEWS欄に既報のとおり，野村美佐子氏（日本障害者リハビリテーション協会）が，特別なニーズをもつ人びとへの図書館サービス分科会（LSN）部会長に選出された。井上氏も，図書館理論研究分科会（LTR）事務局に選ばれている。さらなるご活躍を期待したい。なお，筆者は2011年から務めたIFLA図書館協会運営分科会（MLA）委員の任期満了を迎えた。

IFLAハイライト

公開セッションのうち[1]，ここでは，「IFLAハイライト」（セッション117：18日9:30〜10:30）の様子を，少し紹介しておきたい。

このセッションでは，まず大会組織委員会共同委員長のセガメティ・モラワ南アフリカ図書館情報協会（LIASA）会長と，ウヤラ・サトゴールLIASA前会長から，本大会の報告があり，続いてジェニファー・ニコルソン事務局長から最近のIFLAの活動報告が行われ，最後にドナ・シーダー新会長から展望提案があった。

本大会の報告の中では，IFLA大会開催に先立つ７月20〜22日，「図書館プログラムを通じた開発のための行動」（ALP）プログラムの一環として，アフリカにおける図書館振興をテーマとする会議が，ナミビアの首都・ウィントフックで開かれたことが紹介された。この会議は，８月14日，アフリカ諸国の大臣や代表が集い，アフリカの図書館の向上を目指して，情報アクセスに関する「ケープタウン宣言」が採択されることに結実した。

また，ウィントフック会議の前々日７月18日は，アパルトヘイト撤廃に尽力した故ネルソン・マンデラ氏を讃える国連の国際デーであり，同氏の67年に及んだ獄中生活にちなみ，“誰かの幸せのために67分間を使う”日とされている。LIASAでは，その精神に基づき，IFLA大会終了まで，IFLA児童青少年分科会（CYA），ALA国際交流委員会アフリカ小委員会と共同で，「図書を贈って生活を変えよう」（“Gift a Book and Change a Life”）キャンペーンを実施することとし，ケープタウンの貧しい子どもたち向けの図書を集めた点も紹介された。

IFLA活動報告の中では，国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」への取り組み展望が紹介された。同アジェンダは，途上国・先進国や政府・民間・市民社会の垣根を超えて，あらゆる関係者が貧困撲滅と持続可能な開発を目指すものであるが，IFLAでは昨年，情報アクセスの保障をアジェンダ中に盛り込むことを目的として，IFLAリヨン大会で「リヨン宣言」を採択した。同宣言は日図協を含む585機関が署名している。

▲セッションの様子

2030アジェンダでは，17の目標と169ターゲットからなる持続可能な開発目標（SDGs）が設定されている。中でも，“国内法規及び国際協定に従い，情報への公共アクセスを確保し，基本的自由を保障する”（ターゲット16.10）[2]点が明記されたことを，IFLAでは歓迎している。情報アクセス，ユニバーサル・リテラシー，文化・自然遺産の保護，情報通信技術（ICT）の活用の重要性について，IFLAでは今後も国連への働きかけを続けていくという。

シーダー新会長からの展望報告の中でも，2016年からの５か年で，IFLAは，(1)社会における図書館の重要性の主張，(2)情報・知識へのアクセス保障，(3)文化遺産の保護，(4)図書館員の可能性を高めること（Capacity Building）に，重点を置くことが述べられた。

セッションの最後には質疑応答が行われ，“リヨン大会で推進が謳われたIFLAトレンド・レポートはどうなったのか”などの点について，会場から質問が寄せられた。ニコルソン事務局長から，トレンド・レポートの精神は現在の活動に包摂されているとの回答があり，シーダー新会長からは，過去の検証も大事だが，今後にどのように活かしていくかが問題であるとの認識が示された。

現地での日本人関係者の交流

会期中の８月17日には，南アフリカ初等教育支援の会（SAPESI）理事長の蓮沼忠氏の協力のもと，現地のショッピング中心地ビクトリア＆アルフレッド（V&A）・ウォーターフロントのシーフード

レストランBAIAで，日本人参加者交流会が開かれ，総勢23名が参加した。

▲17日の交流会

蓮沼氏は1998年からソニー南アフリカに駐在し，退職後もSAPESIの活動を続けられている。SAPESIでは，2005年から南アフリカ教育省と共同で「南アフリカ図書館車プロジェクト」を実施しており，日本で役目を終えた移動図書館車を再活用し，南アフリカの図書館未設置地域に贈る活動を進めている。“南アフリカにはまだ学校，本のない地域が多いです。本を持っていくと，その子たちの顔がみんな輝く。競って本を読む姿に背中を押されて，活動を続けています”と蓮沼氏は仰っていたが，遠く離れた南アフリカの地で地道に活動を続けられている姿には，ただ頭の下がる思いであった。

20日には蓮沼氏の案内で，日本から送られた移動図書館車が実際に走る，ケープタウン近郊の二つの村の小学校を見学することができた。日本からの16名が参加し，現地の教師・生徒たちと交流したり，西ケープ州オバーバーグ地区教育長ジェニー・ブリッジマン女史から同州の教育状況について話を伺ったりと，たいへん貴重な機会を得た。

▲20日の見学会

西ケープ州には90の学校が設立されているが，学校図書館のないところがほとんどで，図書館車が45校をカバーしているという。各学校間は距離が離れており，移動図書館車は２週間に１度巡回している。車は日本のときとは外装を変えて利用しているが，塗装費用などは，アップルタイザー社ほか２，３の企業から寄附を受けて運用しているそうである。また，車体は頑丈な造りではあるが，日本で走り終えてから南アフリカの険しい道を走り続けて，老朽化も進んでいる。ブリッジマン女史と蓮沼氏からは，日本で使命を終えた移動図書館車があれば，ぜひ情報提供いただきたい旨，言付かった。本欄をお読みの関係者の方には，ぜひご検討いただければ幸いである。

来年はOH（米国オハイオ州）

さて，８月20日の閉会式では，IFLAの活動に功労のあった人びと・団体への各種表彰や，新理事会の紹介，最優秀ポスター発表の表彰などがあった。2011-13年にIFLA会長を務めたイングリッド・パラン氏に，IFLA最高の栄誉とされるIFLA名誉フェローの称号が授与された。また，昨年の第100回記念全国図書館大会でも登壇いただいたニコルソン事務局長が，本大会を以て事務局長を退任されることとなり，その報告時には会場から惜しみない拍手が送られた。

最後に，2017年の開催地はポーランドの歴史的都市ヴロツワフであることが発表された。市長からのあいさつの中で，都市名の発音がたくさんの愛（“Wrocław＝lots Love”）に通じることをかけて，“皆さん，make loveのたびにWrocławと言おう”と呼びかけると，参加者の間で大きなどよめきが広がった。

来年は８月13-19日に米国オハイオ州コロンバスで開催される。同時期には，日本で国際学校図書館協会（IASL）東京大会も開かれ（８月22-26日．明治大学），国際大会が続くが，IFLA分科会委員の方々をはじめ，現場の図書館員，大学の研究者，大学院生など，図書館関係の皆さまのご参加を，心よりお待ち申し上げております。

［注］最終アクセス日はいずれも2015年10月23日

1）発表要綱の多くは，“Programme”［http://conference.ifla.org/ifla81/programme］で見ることができる。

2）「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」（外務省仮訳）［http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf］

（みうら　たろう：JLA国際交流事業委員会委員長，明治大学）

［NDC 10：010.6　BSH：1. 国際図書館連盟　2. 国際交流］